

# ピンクリボンNEWS

2025年度  
夏号  
Vol.14 No.2

発行人 認定NPO法人 J.POSH

編集 ピンクリボンNEWS 編集委員会

発行所 J.POSH事務局〒538-0043 大阪市鶴見区今津南2丁目6番3号 TEL.06-6962-5071

**J.POSH**  
日本乳がんピンクリボン運動®

## TOPICS

### がんと向き合う 親子とともに Hope Treeの 願いと支援の輪



NPO法人 Hope Tree  
代表理事

大沢 かおり

このたびは、貴重な紙面をお借りして、私たちNPO法人 Hope Tree(<https://hope-tree.jp>)の活動をご紹介させていただく機会をいただき、心より御礼申し上げます。

はじめに簡単に自己紹介させていただきます。私は1991年より東京都目黒区の東京共済病院で医療ソーシャルワーカーとして勤務し、2003年には自らも乳がんの治療を経験しました。2007年からは乳がん相談支援センター専任となり、これまで多くの乳がん患者さんの相談に対応してまいりました。そして2008年、親ががんになった子どもたちとその家族を支えるために、NPO法人 Hope Treeを設立し、代表理事を務めています。

乳がんは、子育て期の女性にとって身近ながんの一つです。診断や治療に伴う変化

は、患者さんご本人だけでなく、ご家族の生活にも大きな影響を与えます。患者さんと関わる中で、親の病気を経験する子どもたちの心にも、不安や戸惑い、言葉にしづらい感情があることに気づかされてきました。治療によって家庭のリズムが変わったり、理由を知らされないままお母さんの体調不良を目の当たりにすることで、子どもたちにさまざまな影響が生じることがあります。

Hope Treeは、そうした子どもとその家族を支えるために設立されました。医療ソーシャルワーカー、臨床心理士、チャイルドライフスペシャリスト、医師、看護師など、多職種の専門職が集まり、「親が病気になっても、子どものたくましい力を育みたい」という思いのもと活動しています。

当時の日本では、「親ががんになった子ども」への支援は前例がほとんどなく、家族支援においても子どもの視点は見落とされがちでした。そこで私たちは、海外の専門家を招いての講演会やワークショップを開催し、2010年からは国内初となる子ども支援プログラムCLIMB®(Children's Lives Include Moments of Bravery)を開始しました。(次ページへつづく)



CLIMB®(クライム)は、親ががんと診断された家庭で育つ6歳から12歳の子どもたちを対象としたグループプログラムです。親ががんになるといろいろな気持ちになりますが、「どんな気持ちになっても大丈夫」というメッセージを伝え、工作などを通して自分の気持ちを表現したり、周囲に伝える方法を学び、「対処する力」を育んでいきます。親のがんを正しく理解し、自分なりに受けとめていけるよう、専門職がやさしくサポートしています。

また、同じような経験をした仲間と出会い、共に過ごす時間そのものが、子どもたちにとって大きな支えになります。「自分だけじゃなかった」と感じられることが、安心感や自己肯定感、そして親のがんと向き合う力へとつながっていきます。

これまでの参加者からは、「ママが病気で聞いてすごく怖かった。でも、同じ気持ちの子がいてホッとした」「本当のことを話せたのがうれしかった」「1回目に行ったのしくて、つぎがたのしみになって、とてもうれしくなりました。さいごのひはかなしかったです。またあいたいな、とおもっています」「工作が楽しかったです」などの声



CLIMBプログラムの活動風景①

### 「がんの治療を学ぶ時間」

キワニスドールに顔や洋服を描いた後、お人形に点滴をして点滴の仕組みを学びます。親が受けている治療を知ることで、怖さが和らぎます。



CLIMBプログラムの活動風景②

### 「仲間との交流のひとつコマ」

自由時間に女の子がホワイトボードに仲間の似顔絵を描き、名前を書いていた。同じような経験をしている仲間の絆が生まれて、それが子どもたちのこれからの力にもなっていきます。

が寄せられています。

CLIMB開催中、親(患者さんと配偶者)は別室で「CLIMB親プログラム」に参加します。親グループの目標は、親ががんであることに関連する悩みに子どもが向き合うのを親が手助けできるようにすることです。セッションでは、親のがんと子どもの発達に関する情報、親自身のストレス管理、親子のコミュニケーション、回復力を家族で高める方法などを学びます。

参加したがん治療中のお母様方からは、「同じ境遇の子どもたちと、サポートしてくださるスタッフの方々との関わりを通して、家庭だけでは足りない部分に寄り添っていただき、娘自身が心を解放できたと感じています」「がんの話は“暗いもの”という認識だったので、できれば話したくないものという暗黙の了解みたいなものがありました。一緒に楽しく課題をこなしていくうちにただ現実に起きたひとつの出来事として向き合うものへと変化しました。」

「子どもには安心感を、親は新しい視点を授けてくれたと思います」「がんや治療によってできた距離が縮まったように思います。気分的に楽になりました。」「“不安”“悲しい”と言葉に表したり、甘える事ができるように

なりました」「毎週すごく楽しみにしていました。私以外のがんのお母さんに会ったことやそのお友達に出会えたことが嬉しく、安心したようです。もっと話したいとっていました」といったお声をいただいています。

Hope Treeでは情報提供にも力を入れており、「子どもとがんについて話してみませんか」など4種類の冊子を制作し、無料でお届けしています。ご本人からのお申込みはもちろん、医療機関からのご依頼も多く、幅広くご活用いただいています。

私たちがCLIMB®のような直接支援と並行して医療者向けの教育にも取り組んでいるのは、私たちが東京で活動しているだけでは、全国の子どもたちに支援を届けきれないからです。地域の医療者が、子どもをもつ患者さんにどう関わればよいかを学ぶことで、より多くの子どもたちに支援が届くようになります。実際、こうした医療者の働きかけにより、支援の輪が全国に広がってきています。



CLIMBプログラムの活動風景④

北海道CLIMB… 気持ちを落ち着かせる方法として深呼吸に取り組んでいるところ。(写真上)

秋田CLIMB… 兄弟で参加。(写真下)

さらに、必要な支援に出会えない方にもヒントを届けたいと考え、『がんになった親が子どもにしてあげられること』（ポプラ社）という本も執筆しました。子どもへの伝え方や接し方、家庭でできる工夫などをわかりやすく紹介しています。「どうしたらいいか、自分で考えるきっかけになった」という声もいただいています。ぜひ多くの方に手に取っていただけたら嬉しく思います。

2022年には、こうした取り組みが評価され、公益財団法人 日本対がん協会より「日本対がん協会賞(団体の部)」を受賞しました。これからも、がんとともに生きる親子の力になれるよう、活動を続けてまいります。

現在、東京・北海道・秋田・福井で'25年夏休みCLIMBの参加者を募集中です。詳細はHope Treeのホームページ「お知らせ」に掲載していますので、ぜひお気軽にお問い合わせください。お子さんにとって、きっと楽しく安心できる時間になると思います。



CLIMBプログラムの活動風景③

### 「沖縄の乳腺クリニックでの開催」

マンモグラフィ機器や点滴のしくみの説明を、子どもたちが真剣な表情で聞いていました。

# ピンクリボン温泉ネットワーク

温泉パートナーのご案内

私たち日本人にとって、温泉は心身ともに癒しの場です。多くの乳がん経験者の方々は、乳がんで手術をする前と同じように家族や友人と温泉に入りたいとの想いをもっておられます。しかしながら、手術の傷あとが気になり、温泉に行くことから遠のいてしまっている方が沢山おられるのも事実です。掲載の施設はピンクリボン温泉ネットワークのパートナーとして「乳がんの手術を受けて、温泉には行きづらくなつたと感じておられる方々にも温泉を楽しんでいただける環境作り」に取り組んで頂いております。※各施設の掲載は地域順です。  
 ※ピンクリボン温泉ネットワークについてとその他の温泉パートナーはJ.POSHのホームページをご覧ください。(https://www.j-posh.com)  
 ※規約を変更し令和2年3月より天然温泉に限らず大浴場や貸切風呂の有る施設にも広げました。

北濃道	温根湯温泉 美白の湯宿 大江本家
青森	浅虫温泉 南部屋・海扇閣
岩手	岩手県鶯宿温泉 竹あかりの宿 加賀助
	新鉛温泉 結びの宿 愛隣館
	座敷わらし伝説の宿 緑風荘
	盛岡つなぎ温泉 四季亭
秋田	からまつ山荘 東兵衛温泉
山形	かみのやま温泉 お部屋食と温泉貸切風呂 くつろぎの宿 有馬館
福島	福島県福島市土湯温泉 自噴泉の宿 ニュー扇屋
	芦ノ牧温泉 丸峰観光ホテル
栃木	那須黒磯温泉 かんすい苑 覚楽
	板室温泉 奥那須・大正村 幸乃湯温泉
	板室温泉 あったか〜い宿 勝風館
	板室温泉 Onsen Ryokan 山喜
	塩原温泉 彩つむぎ
	塩原温泉 やまの宿 下藤屋
	益子温泉 益子館 里山リゾートホテル
群馬	丸沼高原 座禅温泉
	老神温泉 穴原湯 東秀館
	老神温泉 上田屋旅館

群馬	老神温泉 金龍園
	老神温泉 吟松亭 あわしま
	老神温泉 ホテル 伍楼閣
	伊香保温泉 如心の里 ひびき野
	伊香保温泉 ホテル松本楼
	伊香保温泉 温泉宿 塚越屋七兵衛
	伊香保温泉 塚越屋七兵衛 別館 香雲館
	伊香保温泉 市川別館 晴観荘
	伊香保温泉 山陽ホテル
	伊香保温泉 お宿 玉樹
埼玉	秩父七湯《御代の湯》 新木鉱泉
千葉	亀山温泉ホテル
東京	東京・湯河原温泉 万葉の湯
神奈川県	仙石原 スキの原一の湯【本館/別館】
	仙石原 品の木一の湯【本棟/別邸】
	仙石高原 大箱根一の湯
	塔ノ沢 一の湯新館
	塔ノ沢 一の湯本館
	強羅花扇
	強羅花扇 円かの杜

神奈川県	箱根湯本温泉 箱根路開雲
	箱根湯本温泉 天成園
	箱根湯本温泉 天成園 小田原駅 別館
	鶴巻温泉 元湯 陣屋
新潟	マリンホテル ハマナス
	うみてらす名立
	牧湯の里 深山荘
	ホテル小柳
	新潟県瀬波温泉 大観荘せなみの湯
	NASPAニューオータニ
富山	北アルプス山岳リゾート 立山高原ホテル
石川	粟津温泉 あわづグランドホテル
	粟津温泉 湯快わんわんリゾート粟津
	山中温泉 花・彩朝楽
	北陸・加賀 山代温泉 ゆのくに天祥
山梨	竜王ラドン温泉ホテル 湯一とびあ
	身延山三門前 旅館 田中屋
	尾白の湯 白州・尾白の森名水公園べるが
長野	昼神温泉 保養センター尾張あさひ苑
	昼神温泉 おとぎ亭 光風

長野	昼神温泉 ひるがみの森
	昼神温泉 昼神グランドホテル 天心
	昼神温泉 癒楽の宿 清風苑
	昼神温泉 ユルイの宿 恵山
	昼神温泉 お宿 山翠
	昼神温泉 飯伊森林組合 昼神荘
	昼神温泉 ホテルはなや
	昼神温泉 湯多利の里 伊那華
	浅間温泉 onsen hotel OMOTO
	浅間温泉 尾上の湯旅館
	浅間温泉 東石川旅館
	浅間温泉 富士乃湯
	上諏訪温泉 萃 sui 諏訪湖
	上諏訪温泉 し ん ゆ
	蓼科親湯温泉
	ホテルタングラム
	信州むしらの湯 やきもち家
	別所温泉 緑 屋
	ぎふ長良川温泉ホテルパーク
	下呂温泉 下呂観光ホテル

岐阜	下呂温泉 下呂観光ホテルしょうげつ
	下呂温泉 木曾屋
静岡	飛騨高山温泉 高山グリーンホテル
	伊豆今井浜温泉 花の風
	伊豆・伊東 金目鯛の宿 ころね
	湯河原温泉 ニューウェルシティ湯河原
	熱海温泉 ホテル・サンミ倶楽部
	伊豆長岡温泉 ニュー八景園
	至善天遊
	姫宿 花かざし
	三河湾国定公園・三谷温泉 ホテル明山荘
	懐古ロマンの宿 季さら
	おごと温泉 びわこ緑水亭
	おごと温泉 里湯昔話 雄山荘
	おごと温泉 湯元館
	おごと温泉 天然源泉の宿 ことゆう
	おごと温泉 暖灯館 きくの家
	おごと温泉 湯の宿 木もれび
おごと温泉 びわ湖花街道	
おごと温泉 琵琶湖グランドホテル/京近江	

京都	京の宿 日昇別荘
	犬鳴山温泉 不動口館
大阪	東大阪 石切温泉 ホテルセイリュウ
	神戸みなと温泉 蓮
兵庫	日和山温泉 ホテル金波楼
	有馬温泉 月光園 鴻臚館 游月山荘
	有馬温泉 有馬グランドホテル
	神戸ポートタワーホテル なごみの湯宿
	湯村温泉 緑屋
	南紀勝浦温泉 ホテル浦島
	熊野本宮温泉郷 川湯温泉 山水館 川湯みどりや
	熊野本宮温泉郷 川湯温泉 山水館 川湯まつや
	南紀勝浦温泉 万清楼
	三朝薬師の湯 万翠楼
鳥取	きくがわ温泉 サングリーン菊川
	新祖谷温泉 ホテルかずら橋
徳島	北川村温泉 ゆずの宿
	御宿はなわらび
高知	源泉かけ流しの宿 清乃屋
	セントラルホテル伊万里
福岡	
佐賀	

● 日帰り温泉ネットワーク ●

専用入浴着を着用して入浴できる日帰り温泉施設をJ.POSHのホームページ内にて、ご紹介しております。右のQRコードよりアクセスして、ご覧ください。なお、一部を除きこれらの施設様では「ピンクリボン温泉ネットワーク」に加入の施設様とは異なり、入浴着の貸出は行っておりません。ご注意ください。



日帰り温泉ネットワーク

## オフィシャルパートナーのご紹介

## 患者会「関西ひまわりの会」

## 発足から四半世紀

「関西ひまわりの会」(佐伯博美会長=25年5月末会員53人、事務局=大阪市中央区北浜3-2)は2001年10月、関西医科大学附属病院に当時勤務していた田中完児医師と中村伊佐子看護師が中心となって立ち上げた院内の乳がん患者会。患者さん達の困り事などをじっくり聞き、相談できる場として患者会が始まりました。やがて、乳がんの啓発にも活動を広げ、2006年5月にJ.POSHのオフィシャルサポーターに登録(2009年制度分類により移行、現在はオフィシャルパートナー)。

『患者がひとりぼっちにならないために』と立ち上げられた同会は「患者の声をもとに、患者のために」を掲げて四半世紀近い歴史を刻んでいます。顧問にはロンロゼ田中完児乳腺クリニック・田中完児院長、山本大悟・星光病院理事長、吉田秀行・よしだ乳腺ホームクリニック院長、橋爪誠・橋爪医院院長、兼松清果・関西医大香里病院乳腺外科部長の各氏が名を連ね、相談役には中村伊佐子看護師、西村和美看護師がおられます。年会費は3000円で、現在は関西医大の患者さんに限らず、乳がん経験者ならだれでも入会可能となっています。

## 活発な質問に医師回答

主な活動は、年2回(5月、11月)の定例会=講師を招いての講演会と自由な質問を受け付ける質疑応答。おしゃべりルーム=毎月第1土曜日午前に枚方市立総合福祉会館(ラポールひらかた)の会議室にて実施。各種イベント開催=日帰りツアー、交流会、セルフリンパマッサージ講習会などを開催し、患者同士、医療者との交流を図り、また、ひまわり通信=Q&Aの冊子を配布し情報の共有化を図っています。

J.POSHのオフィシャルパートナーとしてピンクリボングッズの購入協力を始め、各種のピンクリボン活動への参加もしておられます。2013年10月の大阪駅前での大々的な啓発ティッシュ配りは、中村伊佐子看護師の尽力で実現し、その後の「J.POSH啓発ティッシュ配りキャンペーン」へと発展しました。

25年度の総会は5月18日に枚方市内のラポールひ



佐伯博美会長

中村伊佐子  
相談役

らかた大研修室で開催されました。行事経過報告、会計決算報告などに続き、話題別のグループに分かれておしゃべり会を開催。その後、橋爪誠医師による『サイコオンコロジー』というタイトルの講演を聴講。

続いて質疑応答の時間が設けられ、参加者から活発な質問が寄せられました。「術後の血液検査の回数が少ないのではないか」、「術前に言われていたしこりの大きさと術後の実際の大きさが違ったが…」、「父方のいとこが3人も乳がん罹患したが、遺伝性について教えて…」、「カルテ自体をもらうことはできるか」などの質問が上がりました。これらの質問に対し壇上の田中、橋爪、山本の各医師が「血液検査の回数としては医療施設によって異なるが、自分自身の経験か



(質問に答える右から田中、橋爪、山本各医師)

らは、より早期の方は再発リスクが低くなるので採血やその他の検査の頻度を低くしている」、「しこりの大きさは術前予測と術後の結果が違うケースは少ない」、「遺伝性は親子、姉妹といった関係から、いとこといった関係まで血縁の近親度による差があるのでは」、「カルテの所有権は医療側にある。但し、カルテの開示は可能」などと回答していらっしゃいました。

## 【佐伯会長の話】

乳がんとのお出会いは2009年9月に受けた人間ドック。自覚症状がない状態で気軽に受けた検査にもかかわらず、いきなり余命宣告を受けたかのようでした。これからどうなっていくのか不安や恐れ、家族の顔が浮かんで落ち着かない日々を過ごし、経験者はこんな思いをどう乗り越えているのか。日々の生活や治療体験を話し合える場が欲しくて主治医に相談し、紹介されたのが「関西ひまわりの会」でした。

“患者がひとりぼっちにならないために” 患者同士の親睦を図り、不安や悩みなどを話し合い、励ましあい、自身の知識を深め、自分らしく、より健康的な生活を送ることを目的に活動しています。

## 事務局からのお知らせ

### 奨学金まなび

今年度の新規受給生が決定いたしました。今年も多く申請をいただきましたが、その中から35名を受給生として決定いたしました。いつもながら、採用とならなかった人々には残念な思いをさせてしまう事、私達にとっても辛いところがございます。

しかしながら、基金の関係上人数を決める必要があり、受給生を卒業まで支援を続けられる事が大切と考えております。

「J.POSH奨学金まなび」への温かいご支援をお願い申し上げます。

### 啓発活動助成金

こちらも沢山の申請を頂きました。どの団体様も、色々なイベントを計画して、活発

に活動をされていますが、この中から、5万円の助成金の受給対象にならなかった団体様は、どのように活動されるのか、活動できなくなってしまうという団体様が多くなるのでは?と考え、今年は5万円を3万円にして、より多くの団体様に給付を~と考えました。承諾頂ける団体様に、一律3万円の給付とさせていただきます。

### 啓発ティッシュ配りキャンペーン

今年も、全国で啓発ティッシュを配っていたきたいと考えておりますが、昨今の物価の高騰のあおりを受け、様々な場面で、節約ムードにならざるを得ない状況です。こちらでも申し訳ございませんが、応募資格を縮小させて頂いております。

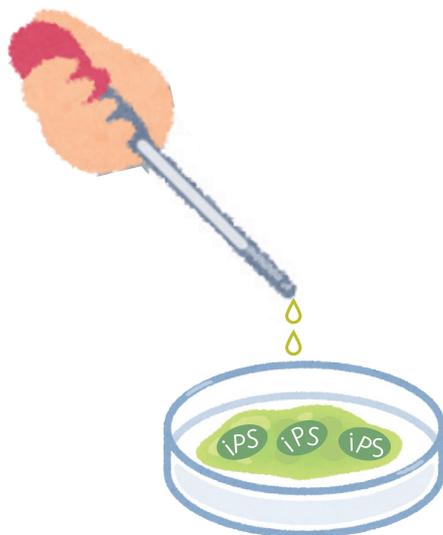
詳しくは、本誌、裏面をご覧くださいませ。

## ピンクリボンNEWSあとがき

# iPS細胞で再生医療急進展

2025年4月13日に開幕し半年間にわたって開かれている大阪・関西万国博覧会。注目を集めているのがパナソニックに展示されている「動くiPS心臓」。iPS細胞から作製した心筋シートを用いたiPS心臓で、『再生医療の進展を目の当たりに実感できる』と評判を呼んでいるということです。京都

大学の山中伸弥教授が06年8月にマウスで初めてiPS細胞の作製に成功し、ノーベル生理学・医学賞を受賞してから間もなく20年。この間、この細胞を利用して続けられている再生医療の研究結果が次々と発表



され、病気と闘っている人々を勇気付けています。「iPS細胞でパーキンソン病症状改善、糖尿病治療、肺・肝臓がん治療」…などのニュースが次々と伝えられていますが、最近、「京都大の研究チームによる7人のパーキンソン病患者に治験を実施し、すべての患者で安全性・有効性が示された。協力した

製薬会社は国に製造・販売の申請を行った」というビッグニュースは、いよいよ薬の実用化も近い!こうなると『乳がんにも有効な治療』が実現する日も近い!と、期待が大きく膨らむのを禁じえません。(I.T)

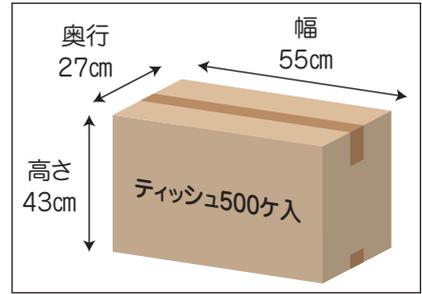
# ピンクリボン啓発活動をしたい団体・個人サポーターの方へ

# 啓発ティッシュを抽選でプレゼント!!

**総数最大10万個を提供** 今年は諸物価の値上がりもあり、規模を小さくさせて頂いております

■ プレスト・アウェアネス啓発ティッシュ ■

■ 発送時の外装(ケース) ■



100個は3辺計80サイズで発送

形態: ポケットティッシュ 寸法: 横125×縦105×厚さ8ミリ 外装: ビニール、台紙

<p>応募資格とプレゼント数量</p> <p><b>!</b> 公的機関(市町村、保健所等)や企業・保険組合は対象外となります</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピンクリボン団体</li> <li>・乳がん患者会</li> <li>・非営利団体(対象となるかは分からない場合はお問い合わせください)</li> <li>・J.POSH個人サポーター(2025年度登録更新または新規登録の方が対象です) ※キャンペーン応募と同時に更新・新規登録を希望される方は7/30(水)までにお振込み(¥2,000/年間)をお済ませください。8/1(金)にお振込みが確認できない場合は対象外となります。</li> </ul> <p>★★ 個人サポーターの方には応募者全員に提供いたします。★★</p>	<p>左記の団体様は</p> <p><b>500個</b> (1ケース)</p> <p>個人サポーター様は</p> <p><b>100個</b> (1ケース)</p>
<p>応募方法</p>	<p>応募用紙をJ.POSHのHPよりダウンロード →  メールまたはFAX</p> <p>※郵送は不可</p>	
<p>応募先</p>	<p>認定NPO法人 <small>ジェイ ポッシュ</small> J.POSH事務局 ティッシュキャンペーン係</p> <p>メール <b>jposh@j-posh.com</b> FAX <b>06-6962-0065</b></p>	
<p>スケジュール</p>	<p>応募締切 <b>8/1(金)必着</b> ▶▶ 当選発表 <b>8/20(水)</b> ▶▶ 発送時期 <b>8月第4週頃(予定)</b></p>	
<p>当選発表</p> <p>発送について</p>	<p>J.POSHのHPにてお知らせ </p> <p>※個別の連絡はいたしません。 ※発送しましたらJ.POSHのHPにて掲載いたします。 ※着荷日時のご指定はできません。</p>	
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選考方法: 抽選(応募者全員への提供ではありません)</li> <li>・個人サポーターの方には応募者全員に提供いたします。 ※個人サポーター登録方法 → </li> </ul>	
<p>注意事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ティッシュ配りに関する活動や団体様をJ.POSHが発行する媒体にてご紹介させていただく場合がございます。</li> <li>・街頭にてティッシュ配りを行う場合は、所轄の警察署に申請する必要があります。</li> </ul>	
<p>お問合せ先</p>	<p>認定NPO法人 <small>ジェイ ポッシュ</small> J.POSH事務局 ティッシュキャンペーン係 TEL: 06-6962-5071 メール: jposh@j-posh.com</p>	